city & life

都市のしくみとくらし

no.61
autumn
2001

特集 30代建築家の都市イメージ

city&life no.61 autumn 2001

表紙・表紙裏――photo:ホンマタカシ

特集　30代建築家の都市イメージ

contents

平坦な戦場に生きる遅れてきた者たち｜五十嵐太郎　2
若手建築家による都市のイメージ

｜プロポーザル｜ぼくらはこんな都市を考えている　8
SSC(SS再生計画実行委員会)/project.co.jp/
みかんぐみ/アトリエ第5建築界 宮本佳明/SML(西牟田奈々+和田江身子)/T*O

｜対談｜東京って「かわいい」?｜香山リカ×貝島桃代　25

｜インタビュー｜資本主義の核心部にタッチし続ける
第三世代の建築家たち｜隈 研吾　31

戦後日本の建築家は都市をどう描いたか｜若林幹夫　35
――構築、解体、脱構築、そして……

｜information・back number｜　40

30代建築家の都市イメージ

特集

ユニット派と称される一群の建築家たちがいる。個人で設計するかたわら、状況やプロジェクトによっては、ユニットを組み共同で設計を行う。彼らの多くは1960年代以降に生まれた若い建築家たちだ。
彼らの共通点は「作家主義への疑問」「形態にこだわらない」「空間性よりも状況を重視する」「結果よりプロセスを大切にする」など。
その姿勢は、先行世代とは大きく異なる。建築同様に、ユニット派の都市観もそれまでのものと大きなちがいを示している。
単に近代的都市計画を批判するだけではなく、彼らは日常的な状況に徹底的にこだわりながら、都市のボイドを注視し、都市のしくみをズラし、都市そのものを読み替える。それは、われわれが無意識に持つ「都市のイメージ」それ自体にゆさぶりをかけるものだ。
30代建築家が描く都市のイメージから、21世紀の都市の行方を考える。

PHOTO:project.co.jpのNetpolisより「スカイスクレーパー」